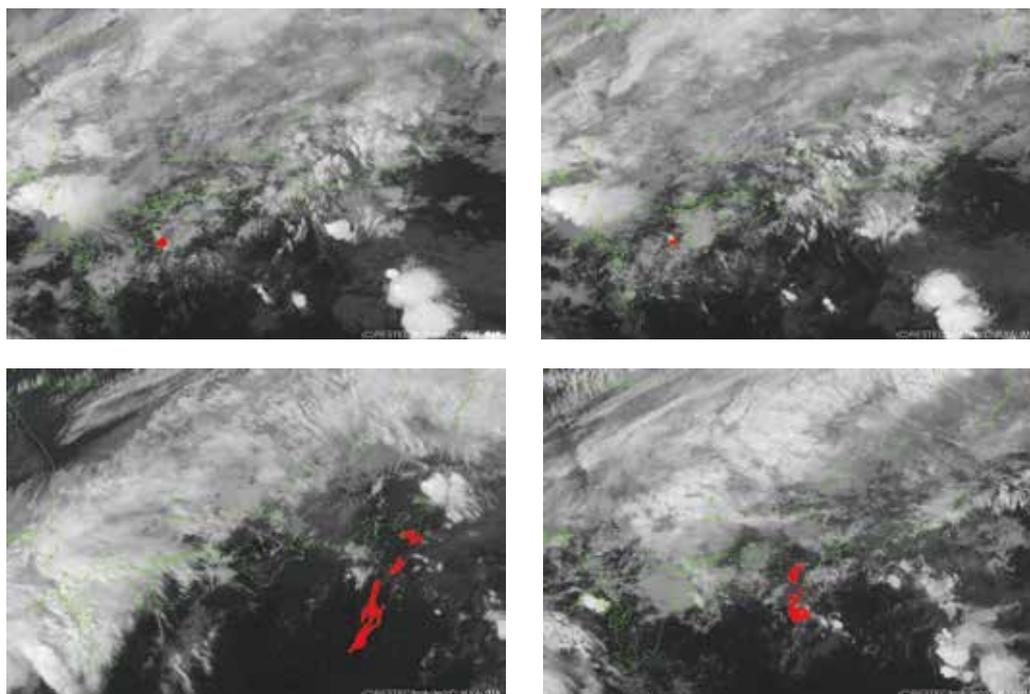


■ 阿蘇山噴火に伴う二酸化硫黄ガスの分布画像の公開

RESTEC

RESTECは、2016年10月8日の阿蘇山の中岳第一火口の噴火後に、ひまわり8号に搭載された熱赤外線センサによって捉えられた二酸化硫黄(SO₂)の広がりを示す画像を公開しました。

10月8日の噴火から約2時間後の10月8日3時40分頃には高知県室戸岬沖上空を通過し、南北に広がりながら、約6時間後の10月8日7時40分頃には、紀伊半島や潮岬沖の上空に達している様子がわかります。さらに約12時間後の10月8日13時40分頃には、千葉南部から伊豆諸島沖にかけて広がっている様子がわかり、これは同時刻にNASAのAura衛星搭載のOMIセンサによって捉えられたSO₂の広がりと一致します。これにより、ひまわり画像による常時大気モニタリングの可能性が広がります。



↑ 阿蘇山位置：青、SO₂分布：赤表示

なお、本解析に利用したひまわり8号データは、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の分野横断型プロダクト提供サービス(P-Tree)より提供を受けました。

■ TRMM End Of Mission Team が NASA Group Achievement Awards 2016 を受賞

RESTEC

日本のセンサである降雨レーダ(以下、PR)を搭載した日米共同開発の熱帯降雨観測衛星(以下、TRMM)は、17年以上の観測を経て2015年6月に大気圏再突入して消滅しました。再突入前までの約1年間、日米関係機関から構成されたTRMM End Of Mission Teamは、高度低下に伴い取得される降雨データも使用できるようにするなど最大限の高品質な降雨データ観測を継続するとともに、PR特別実験観測(※1)などを実施した上で、TRMM再突入を成功させたことが評価され、NASAよりGroup Achievement Awards(※2)2016を受賞しました。当財団はチームメンバーの一員として、JAXA(宇宙航空研究開発機構)業務のもと、PRプロダクト品質モニタ構築や、PR特別実験観測用アルゴリズム開発にて貢献しました。

今後、TRMM後継ミッションであるGPM(全球降雨観測ミッション)においても、TRMMでの成果を生かしつつ貢献するとともに、各種技術面での課題解決などにおきまして、より一層の努力をしております。



※1: PR特別実験観測とは、通常観測時のPRセンサ走査パターンを変更し、走査幅を広げたり、観測密度を高くすることで、新たな降雨分布測定の可能性を探り、将来降雨レーダ設計に資することを目的とした実験です。

※2: NASA Group Achievement Awards とは、NASAのミッションに貢献した者に表彰されるものです。

■ 日本・アジア青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプラン)

RESTECは、10月18日から27日、科学技術振興機構(JST)による「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」を実施しました。

本プログラムは、優秀なアジアの青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指したものです。

RESTECは、東京電機大学理工学部と協力し、リモートセンシング技術に関する講義、実習、見学を含むコースプログラムを提供しました。見学施設先の一つ、JAXA地球観測センターや研修先の東京電機大学理工学部が所在する埼玉県鳩山町の小峰町長との交流、茶道、紙漉きといった地域での伝統文化に触れ、日本そのものに関心を寄せてもらうプログラムも好評でした。

10カ国15名(ベトナム:1名、インドネシア:2名、マレーシア:1名、タイ:2名、ブルネイ:2名、シンガポール:2名、ラオス:2名、カンボジア:1名、フィリピン:1名、台湾:1名)の方々が参加しました。



■ 2016 年日経優秀製品・サービス賞にて「優秀賞 日経産業新聞賞」を受賞

日本経済新聞社主催の「2016年日経優秀製品・サービス賞」において、「AW3D®全世界デジタル3D地図提供サービス」は「優秀賞 日経産業新聞賞」を受賞しました。

AW3Dは、株式会社NTTデータとRESTECが共同で開発・販売し、世界中の陸地の起伏を表現しているデジタル3D地図です。最高で0.5mの解像度まで精度を高めた世界最高精度のサービスで、アジア・アフリカなどの新興国を中心に世界60ヶ国以上の提供実績があります。

今後、本事業を通じて、より一層世界規模の地理空間情報の利用拡大、市場創出ならびに関連産業の振興に取り組んでいきます。

■ 測量業の事業者登録について

RESTECは、測量法の定める測量業者登録を完了いたしました。

測量業者登録標	
登録番号	登録第(1)-35117号
登録年月日	平成29年1月30日
商号又は名称	一般財団法人 リモート・センシング技術センター
代表者氏名	理事長 池田 要

■ 第9回全球地球観測システム(GEOSS; Global Earth Observation System of Systems) アジア太平洋シンポジウムの開催

地球観測に関する政府間会合(GEO; Group on Earth Observations)は、2017年1月11日(水)から13日(金)、文部科学省の支援の下、第9回全球地球観測システム(GEOSS; Global Earth Observation System of Systems) アジア太平洋シンポジウムを開催し、RESTECは事務局として支援いたしました。

2015年11月、メキシコのGEO閣僚級会合において「メキシコシティ宣言」が採択され、今後10年間の取組の計画を定めた「GEO戦略計画2016-2025」が承認されました。この戦略計画の下、今回のシンポジウムでは、「アジア太平洋地域における持続可能な開発目標(SDGs)の実施を支援する地球観測」をテーマとして取り上げました。シンポジウムでは、GEOSSとSDGsに対する社会的ニーズやパートナーシップへの対応と貢献、およびパリ協定や仙台防災枠組などの国際的枠組に焦点を当てて議論致しました。



- ◆開催日:平成29年1月11日(水)~13日(金)
- ◆開催場所:東京国際交流館プラザ平成(東京都江東区)

■ 編集後記

今回のRESTEC Newsのトップに阿蘇山噴火に伴う二酸化硫黄ガスの分布画像を掲載しました。RESTECは、今後も大気モニタリングの研究を行うとともに、ひまわり画像等衛星画像による環境モニタリングでの利活用を図っていきます